

第55回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

みんなの救世主！ 医りよう保険

鳥取県 米子市立加茂中学校 一学年

足立 ほの花

去年の一月、大好きなおばあちゃんが肺ガンになってしまいました。今まで元気だったおばあちゃんのガンは、家族みんなにとつてとてもショックで大きすぎになりました。私は、このことがあるまで、医りよう保険と生命保険の区別もつかず、どのような内容なのかも全くわかっていませんでした。

おばあちゃんの体に見つかるまで、私はあまり大きな病気とは縁がなかったので信じられませんでした。ガンを治すためには入院や手術、ほうしゃ線での治りようもしなければならなくなりました。私や家族、親せきは、どんな治りようをするのか、どの先生にお願いするのが一番いいのかなど色々な心配がありました。けど、おばあちゃんは医りよう保険に入っていたので、入院してからは、治りように専念することができました。

おばあちゃんは保険のおかげでキレイな個室に入ることができました。トイレやシャワーもついていて冷蔵庫もありました。また、家で一人ぼっちになったおじいちゃんも病院の食堂でご飯を食べ、病室のソファをベッドにしておばあちゃんと一緒に泊まることもできていました。私たちがお見舞いに行っても、おばあちゃんとゆっくり、他の人に気がねせずに話すことができました。

「個室は高いけど、保険に入っていたから入れたんだよ。」
と聞き、保険に入っていたとしてもよかったと思いました。

また、私のおばあちゃんは手術が終わりに家に帰ってからは、「ニンジンジュースは体温を上げてめんえき力を高める。」と聞いて、何万円もするいいミキサーを準備、遠い熊本のア蘇の方から有機野菜のニンジンは何十箱も取り寄せました。そして、毎日ニンジンジュースを作っては飲んでいました。するとだんだんニンジンを入れておく場所がなくなり、ニンジン専用の冷蔵庫まで準備しました。私はその時おばあちゃんに、

「こんな冷蔵庫やニンジンをお金の心配をせずに買ったのは、保険に助けてもらったおかげだね。保険に入っていてよかったね。」
と言いました。するとおばあちゃんが、

第55回中学生作文コンクール

「本当だね。これも保険のおかげだね。」
と言いました。

それから、家でも私や家族がどんな保険に入っているのか話をしてみました。

「もし、お父さんが病気で入院してしまったら、お給料はどうなるの。」

と聞いてみました。まず、私のお父さんは、働けなくなった時に助けてくれる生命保険や、病気などになって入院や治りようをしなればならなくなった時に助けてくれる医りよう保険に入っていることがわかりました。また、

「働いていないほの花も、万が一の時には高額な治りようを受けられるように保険に入っているんだよ。」

とお父さんは教えてくれました。まだ働いていない私も、事故や病気になった時、きちんとした治りようが受けられるように保険に入っていることがわかりました。

家族が元気である時には、その存在も忘れていない保険ですが、病気やケガになった時にはお金の心配なく治りように専念できる力強い味方なんだと思いました。今、私たちが元気である時には、この保険がだれかを助け、いざ私たちが困った時には助けてもらえる保険は、まさに私たちにとって救世主のような存在だと思いました。私もこれから、お父さんやおばあちゃんのように、自分に必要な保険を選択し、万が一のために備えていきたいと思えます。